

B128:簡易的二次元バーコード

B128:簡易的二次元バーコード

制限時間カウント
あと5時間57分5秒

あなたは、数値を表す簡易的な二次元バーコードを作成してみることにしました。
あなたの考えた二次元バーコードの表現方法は、以下の通りです。

- ・1桁の数字を、 3×3 の"."と"#"から成るグリッドで表現する。
- ・1桁の数字は、その数字の数の分だけ"#"を左上から右下に向かって埋め、残りのマスは"."で埋めて表現する。
- ・与えられた数値は、上の桁の数値から順に上記表現方法に従ったグリッドで表現し、1行あたり3つのグリッドを左から順に並べる。

ある数値が与えられるので、以上の表現方法に従って与えられた数値を表す二次元バーコードを作成してください。
入力例1では、以下のようになります。

0

.	.	.
.	.	.
.	.	.

1

#	.	.
.	.	.
.	.	.

2

#	#	.
.	.	.
.	.	.

.....

9

#	#	#
#	#	#
#	#	#

ある桁の数の
表し方

1

2

3

#	.	.	#	#	.	#	#	#
.
.
#	#	#	#	#	#	#	#	#
#	.	.	#	#	.	#	#	#
.

4

5

6

入力例 1

評価ポイント

- 10回のテストケースで、正答率、実行速度、メモリ消費量をはかり得点が決まります。
より早い解答時間で提出したほうが得点が高くなります。
1. 複数のテストケースで正しい出力がされるか評価 (+50点)
 2. 解答までの速さ評価 (+50点)

入力される値

入力は以下のフォーマットで与えられます。

N

- ・1行目には、二次元バーコードで表現すべき数値を表す整数 N が与えられます。
- ・入力は合計で1行となり、入力値最終行の末尾に改行が1つ入ります。

それぞれの値は文字列で標準入力から渡されます。標準入力からの値取得方法は[こちら](/guide/samplecode.html)をご確認ください
(/guide/samplecode.html)

期待する出力

- 与えられた数値を表す二次元バーコードを以下の形式で出力してください。
- ・期待する出力は (N の桁数) 行からなります。
 - ・ i 行目 ($1 \leq i \leq N$) には、二次元バーコードの i 行目の文字列を表す文字列 S_i を出力してください。
 - ・出力最終行の末尾に改行を入れ、余計な文字、空行を含んではいけません。

条件

すべてのテストケースにおいて、以下の条件をみます。

- ・ $100 \leq N \leq 999,999,999$
- ・ $(N \text{ の桁数}) = 3 \text{ の倍数}$

入力例1

123456

出力例1

```
#...###.###
.....
.....
#####
#...###.###
.....
```

入力例2

314159265

出力例2

```
####...###
.....#..
.....
#...#####
...###.###
.....###
##.#####
...#####.
.....
```

※エディタが適切に動作しないなどの場合はブラウザ拡張を無効化してください
値取得・出力のサンプルコード (</guide/samplecode>)
各言語のバージョン、環境情報 (</guide/language>)

解答欄

Java



制限時間カウント あと5時間57分5秒

```
1 import java.util.*;
2 public class Main {
3     public static void main(String[] args) {
4         // 自分の得意な言語で
5         // Let's チャレンジ!!
6         Scanner sc = new Scanner(System.in);
7         String line = sc.nextLine();
8         System.out.println("XXXXXX");
9     }
10 }
```



動作確認で使うテストケースを選択

入力例1



提出前動作確認

→入力値を自由に試す (paiza.IO) [🔗 \(https://paiza.io/ja/projects/new\)](https://paiza.io/ja/projects/new)



コードを提出する

一度提出すると修正できません